

Risk Management Report

[防災調査の現場から 第2回]

皆様が抱えているさまざまなリスクに対し、最適な保険をご提供するとともに、リスクそのものを軽減するための解決策をご提案しています。今回は“消火器”についてです。

火災の種類と消火器の能力について

○ 火災の種類は、可燃物により3つに区分されます。

A火災
普通火災ともよばれる木材、紙、布などの普通の可燃物の火災で、水で消火することが可能です。
消火は水でOK!

B火災
一般に油火災とよばれるもので、石油等の引火性物質によるもの。水では消火不能、あるいは困難な火災を指します。
水での消火はかえってキケン!

C火災
一般に電気火災とよばれるもの。変圧器、配電盤その他、電気設備の火災で水をかけると感電の危険がある火災をいいます。

木材、紙、繊維等が燃える火災

石油類その他の可燃性液体、油脂類等が燃える火災

電気設備、電気器具等の火災

○ 消火器の能力は、火災の種類によって消火性能が異なってきます
消火器は大別して(粉末系)(水・泡系)(ガス系)消火器に分けることができます。

	▼薬剤の主成分	▼適応火災		
		A	B	C
粉末系消火器	粉末(ABC)消火器	●	●	●
	粉末(Na)消火器		●	●
	粉末(K)消火器		●	●
水・泡系消火器	水(浸潤剤等入)消火器(クリーンミスト)	●		●
	強化液消火器	●	●	●
	中性強化液消火器	●	●	●
	機械泡(水成膜)消火器	●	●	
	化学泡消火器	●	●	
ガス系消火器	二酸化炭素消火器		●	●
	ハロン1301消火器		●	●

それでは、ここで各種消火器の使用上のメリット・デメリットをご紹介します。

粉末(ABC)消火器



[メリット]

- ABC 火災について、オールマイティに対応できる消火器です

[デメリット]

- 粉末消火剤による機器の汚損、錆発生による2次的損傷危険がある

水消火器



[メリット]

- 木や紙系の A 火災に向き、電子機器類の汚損損害が少ない

[デメリット]

- 石油類や油脂等の B 火災には適さない

二酸化炭素消火器



[メリット]

- 汚損損害少の為…電気設備やコンピュータ等の精密機器類に向く

[デメリット]

- (水のような浸透力が弱い為)木や紙系の A 火災には適さない

“火災から守りたい資産”によって消火器をお選び下さい

危険！劣化による破裂 ...粉末消火器には、「加圧式」と「蓄圧式」の2種類があります

- ・2001年(名古屋他3件発生)死亡事故:廃棄のため放出操作中に破裂…経過年12~26年
- ・2004年(千葉県1件発生)ケガ事故:分解中に接合部のねじが破損…経過年不明
- ・2009年(大阪府他3件発生)ケガ事故:子供が遊んでいる途中に破裂…経過年14~20年

[耐用年数は通常8年間]

蓄圧式には圧力計(ゲージ)が備わっている

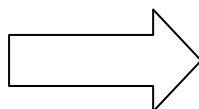


加圧式



蓄圧式

(加圧式)の場合



要注意!

